

平成27年度第1回地域福祉計画推進委員会会議録

- 1 開催日時 平成27年12月17日（木）午前9時30分から午前11時45分
- 2 開催場所 印西市役所 会議棟2階203会議室
- 3 出席者 篠原裕子委員、林正信委員、江川香奈委員、橋詰昌委員、三島木和香子委員、石井照次委員、豊田文子委員、松藤和子委員、渡邊和子委員、吉田郁子委員、大和雅子委員、前田嘉栄委員、田上嘉忠委員、瀧田昭造委員
- 4 欠席者 なし
- 5 事務局 染谷参事、岡本主幹、中澤主査
- 6 傍聴人 1人
- 7 議事 (1) 第2次印西市地域福祉計画の概要について
(2) 第2次印西市地域福祉計画の進捗状況について
(3) その他
- 8 議事録 (要点筆記)

事務局 平成27年度第1回地域福祉計画推進委員会を開催いたします。
会議に先立ちまして、委員にご就任頂きます14名の皆様に市長より委嘱状を交付させていただきます。

【委嘱状交付及び市長あいさつ】

事務局 それでは次第に従い、就任いただきました委員の皆さま及び事務局の紹介をさせていただきます。

【委員及び事務局の紹介】

委員長及び副委員長の選出ですが、印西市地域福祉計画推進委員会設置要綱の規定により、委員の互選により選出となっておりますので、委員長に適任と思われる委員の推薦をお願いします。

※事務局一任

事務局 事務局一任ということですので、学識経験者としてお願いしております、江川委員に委員長を、地域福祉活動という観点で、印西市社会福祉協議会の事務局長である橋詰委員に副委員長をお願いしたいと思います。

議事の進行につきましては、規定に基づき江川委員長に議長をお願いします。

議長 議事に入る前に傍聴希望の方の確認をお願いします。

事務局 お一人いらっしゃいますので、入場の許可をお願いいたします。

議長 傍聴人の入場を許可してよろしいでしょうか。

委 員 異議なし

議 長 それでは議事に入ります。

次第6（1）第2次印西市地域福祉計画の概要について、事務局から説明をお願いします。

【事務局説明】

議 長 ありがとうございます。委員の皆さまご意見、ご質問ございましたらお願いします。

委 員 地域円卓会議をやられていないのはどういった理由ですか。

事務局 災害時要援護者関係について、災害基本法の改正により所管が防災課へ変更となってしまうことなどによりますが、現在の計画に組み込まれており、地域の問題や困りごとについて有効な手立てを地域の関係者の皆様と考えるということが一つの目的として計画上は載っているのですが、本来は実施しなければならないのですが、現状は会議が開けていない状況です。

事務局 補足ですが、同様の組織が数多くあり、同じ方が委員になっているところがあり、実際この円卓会議が本当に機能すれば、全てのいろいろな会合ができるかと思えます。防犯や民生、子育ての会議と同じ方が集まっている様ですので、その辺はこれから整理する必要があると思います。第1次計画から推進プロジェクトと位置付けしましたが、次回の第3次に向けて、今年度から来年度にかけて設計していく中で、地域の会合ができるような仕組みづくりを議論し、計画に組み込んでいきたいと考えております。

委 員 平成24年度から地域福祉計画の委員として参加したいましたが、この円卓会議については、実態は一部の地域で何回かの実績があるだけで、市全域には円卓会議が機能しませんでした。できるだけ機能しない部分はやめようという話も出ましたが、市はこの部分はどうしてもやっていきたいという意気込みだったと思います。しかし、福祉に対する理解が醸成されていない現実があり、同じテーマで福祉を語ろうとした時に、何を話していいかわからないという状況で、会議もまとまらず、そのうちばらばらになってしまったということだと思います。その辺の意識の醸成を、市としてやってから円卓会議をやるのがいいのではという気がします。

事務局 非常にごもつともなご意見だと思います。仕組みだけを作って、はいどうぞということではなく、防災にしても地域活動にしても、最後には地域福祉という言葉でくくられてしまうと思うので、市民の皆様の意識の醸成がなければ地域福祉は成り

立っていかないかと思います。委員からご指摘をいただきましたので、意識の醸成は第一に進めていきたいと思っています。

委員 初めて地域福祉計画を作った時に円卓会議という内容を盛り込みました。それと同時に社会福祉協議会の方でも市と連携という意味での円卓会議を作りました。当時、この計画を作るときには国も県も円卓会議というムードがあり、これからは地域のみんなで関わっていこうという出発点の事例の最初の頃かと思います。また、社会福祉協議会で円卓会議をどのようにやろうかとなった時に、何か災害があった時に地域の関わりが一番強いので、災害をテーマにした円卓会議をやってくれたのが、ニュータウン地区と木下地区でした。他の地区でもいろいろやりましたが、具体化にはいきませんでした。その後、円卓会議の中で要支援者の名簿やカードを作ったりしましたが、個人情報等のネックがあり、名簿管理は防災の関係が所管するなど、言葉も安全安心カードや安心カード、I ネットカード等と変わっていきました。そして、市のほうも要支援者の名簿的なことについては町内会と契約をして公開していくという制度になり、個人情報保護法も緩和され、災害時の名簿提供も緩和されました。阪神淡路大震災や東日本大震災などの大災害が起こるたびに法改正もされてきました。円卓会議という部分では社協も行っていない。でも、私はやはり地域福祉を語るにはやはりその地域の人たちと関わりを持つ。まだ社会福祉協議会の存在を知らないという声があるので、そういうところに力を入れたり、市も社協との連携ということで、介護保険制度が改正され、地域で地域の人を支える仕組みづくりをしていく制度内容になってきているので、それには地域の方々のご意見を聞こうということで支部社協に意見を聞いている。あるいは民生委員協議会で話を聞く、そこには当然市の社会福祉の職員も入っていて、地域の役員も入っている。それと同時にこれからボランティアも必要だということで、市のほうも認知症サポーター養成講座を小学校や地域等でやっています。また、もっと広げようということで今度は社協が事業委託を受け老人介護支援ボランティア研修会を今年度は始めています。また、成年後見制度についてもより広めようということで、いずれは成年後見人になれるような、レベルアップしていくためのものも市は考えて、この事業を初めて今年度は社協に委託してともにやっている。委員の言ったことについては、市としても名称は使っていないけれども、根本たるいろんな声を吸い上げようとしている努力はしているのかなと感じております。円卓会議については実際に当事者で頑張っている方がいらっしゃるの、発言があればと思います。

委員 円卓会議ですが、最初のうちは座談会と言って開いていましたが、自治会や防犯組合などに声かけをしても、集まってくださらない。支部社協としての予算は行事に使ってしまっているの、予算もない。お茶も出せない状態で何にもないのをお願いすると言われて、頑張った部分があったみたいですが、無理だという感じになったのです。本当に申し訳ないですが、学校が主体でやっているさわコミはすご

く集まるんです。各地区の色々な代表の方たちがどんどん集まって、地域の福祉関係のこと、教育のこと、子どもたちのこと、本当にいろんな話が出て、地域のことがかかり分かります。この集まりが利用できないのは本当にもったいないと思います。地域の議員も出席しているので、こういうことが困りましたと言うと、すぐ動いてくださり、すごく動きが速いです。学校側は教育の方なのでお願いとは言えないのですが、これが使えれば、地域に対して中学校の生徒たちのエネルギーも使えるし、いろいろな提案ができるのではないかと、出るたびににもったいない感が出て帰ってきています。以上です。

議 長 ありがとうございました。

委 員 地区町内会長、自治会長の話が出ましたが、一年交代が多いので、つながっていない。長くやっていける組織がないと同じ事になると思います。

委 員 私も、この円卓会議プロジェクトと災害時要援護者支援プロジェクトの両方に関わりました。円卓会議はあらゆるところから人を呼んだため、收拾がつかない。また、さわコミの参加者はさわコミがあるのに円卓会議が必要なのか、円卓会議とさわコミの位置付けはどういう関係かという話も出ました。市としては円卓会議をやってほしいということだったので、円卓会議が定着したら、さわコミがそれに吸収される形がいいのではということでしたが、円卓会議が無くなってしまった。今はさわコミだけが機能していて、学校の子供たちを地域で見守っていくということでメンバーが集まったプロセスがありますが、今は、うちの地区のさわコミは地域の人たちの代表が来て事業報告のようになっています。さわコミを利用することはとてもいいと思います。せっかく集まっているのでそこから円卓会議へうまく引っ張っていったらいいと思います。また、災害時要援護者支援プロジェクトは、結局、市は台帳だけがほしいのではないかと感じました。支援計画を立てるのはそちらにおまかせしますという形で、その時の人たちの意識がそこまでいってなく、抵抗があって進まなかったのですが、船穂、牧の原地区はまだ良く、原三丁目はまだ残っていて、この支援計画に基づく台帳も各町会が持っていて機能しています。ところが他の地域は、その時一年はOKもらってもそのあとは全滅です。この2つのプロジェクトは機能していないんです。あの時に頑張ってやればよかったのにと今は思います。やっと政府の方で地域包括ケアシステムが始まって、今頃説明に来ていますが、この時これをやれていたらと思います。2005年くらいからやっているとこもあり、高齢化率は違うとは思いますが、危機感が違うと思います。10年前からやっているところがあるなかで、印西市はこれからやるのは大変だと思います。

委 員 今の話は、介護保険制度が新地域支援事業になり、地域包括支援センターが、地域の人たちで地域で困っている人を支えるという仕組みを作るためにどうしたらよ

いかを社協の各支部単位で意見交換会と説明会をしました。

委 員 地域包括ケアシステムはこの計画のどこに入ってくるのですか。

事務局 基本的な考えとしては地域福祉の中の一部だと思います。3次計画の中ではその部分も含めて考えていきたいと思っています。

委 員 その言葉を入れた方がいいのではないですか。

委 員 この計画を作った時は地域福祉を主体にしておりました。地域包括ケアシステムは介護保険制度の中で高齢者をどう支えていくかという仕組みづくりの中で言葉が使われるようになった。介護保険制度の在宅介護支援センターから包括ケアセンター、さらに地域福祉、いろんな福祉をとりこんだ地域ケアシステムという制度改正になってきたということです。

事務局 今年と来年で第2次から第3次計画へ見直しをしていく中で計画を練っていききたいと思っています。

委 員 円卓会議のことで引っかかっていますが、国が次から次へと政策を変えるので私たちも振り回されています。社会福祉協議会、町内会等、全部の力を借りないと介護保険制度が成り立たなくなってしまった。地域福祉計画と介護保険は別だと言っていられない、一つにまとめて整理してほしいと思っています。受ける側からしたら何が何だか分からないです。地域の人や高齢者クラブの方にもお世話になって、全部支えてもらわないとやっていけない。他職種共同連携などと言われ、ケアマネ、看護師等全部集まってサービスしなければいけなくなってしまった。町内会や高齢者クラブ、ボランティア、キャラバンネットにも頑張ってもらわないととなってきた、私たちも正直お手上げ状態で、市が言ってくるとおりにやるしかないと思い待っている。一番大切なことは社協の支部、民生委員、こういう人たちがもっと大変になって、ボランティアで頑張ってもらわなければいけないということを最後をお願いしようと思っていた。やはり整理していただかないと。

事務局 委員の言うとおりで、実際にサービスを受ける側には色々な人がいます。ただ、行政としては縦割りになっていて、横に串刺しするような考え方でなければ、片方では会議をひとつ作ります、また一つ作りますというのではなく、市民をベースに考えて我々がどうすればよいかを考えるのが一番いいと思います。その中で、民生委員さんや支部社協の方々、そういった皆様のご尽力が非常に大切になってくると思います。

委員 円卓会議がだんだん衰退していくのを見ています。その原因は円卓会議は色々な人の寄せ集めで、色々やっても居所がない。チラシを出すにしても誰のところに連絡するかというのがなく、相手の方が不安に思っただけで出来ない。さわコミなら学校があって、民生委員なら市や国の委託と分かっているので安心して集まれる。そういうものがなかったため、チラシまで作り浸透していたのに無くなってしまった。ボランティアをするにしても、どこが、だれが責任を持つか、また居場所となる拠点がないので、そういった場所があればと思います。

正直に言って、ほとんどが大森地区にある。例えばフードバンクにしてもちょっとしたものをわざわざ向こうまで持っていくには距離がすごく遠いので、色々なところに拠点を作ってほしいです。そうするともっと実際的な活動ができるのではないかと感じました。それはやはり市にお願いするしかない。無償の力はわたしたちにもできるけれども、その根となる上の方は市の方でやっていただきたいと思います。

事務局 やはり、活動する拠点は非常に大切だと思います。

委員 補足してですが、支部社協の人たちはみんな、地域のために、市ではできないことを細々と頑張ってやっていますが、拠点がなくて荷物や資料、材料などもみんな個人宅で保管している状況です。私たちの地区はコミセンに協力してもらっていますが、それも市の方からあまり良くないと言われている。扱いはサークルと同じ状態なので、なんでかだと思います。自分たちのやってあげたいという気持ちでやっているのに自分たちのためでもあります、違うんだよと声を大にして言いたいです。けれどもみんなサークル扱いで、どうしてかと、やっていて時々虚しく感じます。

委員 地域福祉に一番近いところにいるのは社会福祉協議会だと思いますが、住民の方は社会福祉協議会のことすら知らない方が多く、ふくしだより等広報紙に色々書いて出している知らない方が多いです。でも、市の広報紙は生活の情報誌として読んでいて多く、サービス等、周知しないとあることもご存じない方が多いので、やはり、市民の身近な立場にある市の力は大きいのでいろいろな広報活動がんばってやっていただきたいと思います。社協を中心に円卓会議をやるにしても、支部の総会ひとつにしても、地区の町内会長さんや防犯組合などいろんな方に手紙を出してもいらっしやらない。皆さん知ろうとしてくれないのか本当に難しいと感じ、そこでいつも行き詰ってしまう。数年前に社協の職員が中心となり円卓会議をやられた時はとても良かったです、1回で終わってしまいました。継続は力なりといいますが、すぐに結果が出ないことであっても、定期的にやっていくということはすごく大切だと思いますので、またぜひ、社協さんにあのような形でやっていただけたらと思います。

委員 その通りでして、私もいかに社協を知ってもらおうかということで、あの手この手でやっています。一つの方法としては、まず、賛助会費、一般会費ということで、町内会、自治会にお願いして、納めていただけない自治会を無くそうということで、個別にお話しして、協力してくれた自治会が増えています。今までやっていなかったところも広報紙を持って行って直にお話しして、社協を初めて知ったということもあります。障害者の学童保育等をやっている各地区のNPO法人で連絡会議を昨年作り、それを通して知ってもらい、その利用者の親が関わってくれる。また、ボランティア連絡協議会の準備委員会を作って立ち上げそこから広げていこうと。また、社会福祉法人の施設長連絡会議の準備をしていますので、そこに利用者がいて、介護ボランティアもいて、連携がとれる。社協を知ってもらうことはとても大事なことでと思っています。まだ準備が足りないけれどもやっていきます。知ってもらうということ、また、有償ボランティア的な例えばゆうゆうサービスや外出支援運転ボランティア、ワンコインサービス等を増やしていくことも大事なことで、社協のサービスを受けた人はそうだったのかと分かってくれます。各支部のふれあい給食も同じで、入った方はよかったねとなる。またそこで男性のボランティアがほしいとの声もあるので、行政からも宣伝してくれるとありがたいと思います。やってくれると思います。

事務局 福祉サービス全てを行政で行うことは無理ですので、行政すべき部分、また、皆様をお願いする部分が確かにあると思います。その中でどうしたらうまくいくのかを我々が考えるべきであり、環境を整備すべきだと思います。皆様のご意見を聞きながら進めていかざるを得ないと感じています。

委員 私が社会福祉協議会を知ったのは、父がお世話になったのがきっかけでした。それを考えると、当事者やその年代になると興味を持つかもしれませんが、今、高校生や大学生を育てている親御さんは、まだもう少し先だからという感じであまり興味を示してくれないと思うのです。そういう方々に、市の広報の中に一緒に入れるなど何かの折に目に触れれば、ゆくゆくはお世話になるかも知れないと思ってくれる方が多いのではないかなと思います。私の場合は祖母も初めて介護保険ができた年代にお世話になって、父もお世話になったと思います。自分がその立場になった時に初めてありがたみが分かったので、そういう方が多いと思います。もうひとつ、最近つくづく思うのは、私たち子供のころは倫理社会など授業でやりましたが、今はやっていないのではないかと思います。最近は何んでもかんでも自由を優先して自由を履き違えている傾向が多いと、生意気ですが思うのです。人と人とのつながりをどう育てていくかや、ご近所関係のつながりなどが非常に希薄になってきているということが昔に比べて多いと思います。子どものころからそういう精神を育てていかないと、40～50代の大人になってもそのまま過ぎてしまう。いざ、自分がその立場になって初めて目が覚めるというのではまずいと思っています。

委 員 私が日頃思っているのは、お互いに助け合おうという気持ちを、小さなことでも、日ごろから積み重ねていく、そういう気持ちを育てていきたいと思っています。民生委員をさせていただき、お話している中で、今は色々な制度ができてありがたいというお年寄りの方がいました。少しずつ分かってきているからそういう言葉が出たんだと、会話しながら思いました。今、社会や福祉面も変わってきていることを少しずつ知っていただく。社協の広報等にも載せながら、お互いにみんなが支えあっていこうという気持ちをどれだけ持っていくかということを日頃考えています。また、円卓会議の話がありましたが、初めは歩みは遅々としていても、そこから少しずつ歩めて行けるのではないかと思います。色々なところで頑張っていることを少し整理しながら進めていくと、また歩みが少しずつ違ってくるのではないかと思いますので、よろしくお願いします。ともに頑張っていきたいと思います。

委 員 地域円卓会議や要援護者支援プロジェクトは、最初にやった時にトラウマになっていて、そういう人たちも残っています。新しく関係者になろうとしている人たちは、阪神大震災の時は、遠くのことだったのでまだピンときていないところがあった。その後近くで大震災があったので、意識は変わってきたと思いますが、トラウマを持っている人たちと、新しくやっぱり必要だと思っている人と、混在している形があります。もし、この2つを推進していくこととなれば、必ず前のあれはどうしたと言われますので、その辺は市としてもきちんと説明できるようにした方がいいと思います。

事務局 今回の2次の計画の中でその2つのプロジェクトをやっていますが、今後どうするか、今回の反省を踏まえながら、次期の計画を考えたいと思います。

委 員 やりたくない人も中にはいて、こんなものをやるために町会に入っているのではないという人もいるし、やらなければいけないと思っている人もいる。きちんと筋を通す形で強い気持ちを持ってやっていく、覚悟がいると思います。

事務局 計画を策定するということは、市の意思として作るわけですから、覚悟と言えば覚悟はあります。

委 員 それでお願いしたいと思います。

委 員 国は介護保険制度など全部自治体におろしてくる。県も市の職員も大丈夫なのかと思っています。会議等に行った時は、全部市町村におろしても、できる市町村は限られていますよといつも言うのですが、徐々にやってもらうしかないと言われる。今後、市の作業部会があると思うが、健康福祉部が全部入り、第3次計画を作っていくのですよね。

事務局 今年度1月から来年度いっぱいかけまして、15か月間で改訂していきます。その中で関係する課も入っていただきますし、策定委員会という委員を募ってその中で揉んだりします。計画の中では、各支部の方に出向きまして状況の確認などを予定しています。

委 員 社協では児童デイの連絡会や介護事業サービスの連絡会等着実にやっていただいていると思いますが、とても負担がかかっていると思うので、申し訳なく思い、できるだけ協力するようにしています。私たちのような地域密着型のNPO法人が頑張らないといけないので一生懸命頑張っている。小さいうちから認知証や高齢者のことを理解してもらおうという授業をとっていただき、学校も一生懸命やっている。印西市の場合一番素晴らしいのが、住みよい街づくりで、人口がどんどん増えているわけです。それに伴い、障害者や認知証の人も増えていくでしょうけれども、正直言って、県でも市でも、バーンアウトしてしまう職員が多く、言いたいことが言えないというか、大変さが分かるので気の毒で言えない。やはり地域の社協や民生委員さんなどが頑張らないとという気持ち。地域の草の根から声を上げていかないと、制度がどんどん変わってついていけない。私たちも連携しあっていかなければいけないと思います。円卓会議という名前がいけないのではないかと思います。何かもっと良い名前という話が前にも出たましたが、国はいいところに目をつけるとすぐに制度化して基準化してしまう。私は制度化は賛成していない。制度化されると自由にできなくなる。行政の大変さもわかるが、社協の力を借りないといけないですから、行政がやるべきことを整理していただきたいと思います。

委 員 印旛支部と本埜支部はできたばかりで一番新しいですが、話を聞いているとすごく苦労されていることをひしひしと感じました。その中で共通しているのは、円卓会議はいいということ。こういう組織はあった方がいいが、うまく稼働していないということなので、そこに入っているメンバーが問題ではないかと。1年で変わってしまう方が来たところで、1年で、会議をやりまして終わってしまう。いいことだから市もやろうとしているが、メンバーを変えようとしていないので、そこに問題があると思う。話を聞いていると、一生懸命やっている民生委員さんや社協のボランティアさんたちが一番いいメンバーではないのか。そこからどんどん格上げして、根付いてから上の人たちを呼んで、そういう組織にしまえばいいのではないか。最初から大きな組織を作ってやろうという理想は挫折してしまったのだから、組織だけ作っておいて、メンバーを下から選んでいって、支部長の次は局長、次は民生委員長というようにどんどん格上げしていけば、組織は動いているので、つながっていくのではないか。トラウマになっているところ申し訳ないですが。印旛村のときは社協さん一緒にやりましょうとやってくれていたが、市になった途端に私たちは追い出されたのです。人を追い出しておいて手伝えというのは話が違うのではないかというのは個人的な意見ですが、民生委員さんや社協さんと一緒にや

るのなら、面倒見る気持ちがないと。上が変わった途端に、いちボランティアなのだから市の施設にいるのはおかしいから出て行きなさいとなった。印旛の社協にあった資材は、今、全部自宅に置いてあるのです。それは話が違うんじゃないかと。頑張れと言われて頑張っていたら出て行きなさいと言われたその恨みがありますが、やはり拠点がほしいというのも皆さん共通だと思います。

委員 場所の話がありましたが、我孫子も柏も松戸もNPOセンターが駅前にあり、社会福祉協議会も一緒にあります。円卓会議にNPOは入っていませんが、社協、NPO、民生委員などと一緒に拠点をしてもらえればいいのではないかと思います。活動されている方は高齢化しているので、若い人にどんどん入っていただけるようにするのが課題だと思います。場所をいい意味でうまくコラボレーションできれば邁進できるのではないかと思います。

委員 本当にさわかコミュニティには絡めないのですね。実を言うと、さわコミは同じメンバーなので、また会議かとなると思うのです。地域の主だった方がいて、若いPTA会長や役員さんたちもたくさん来ているので、私たちの支部では社協の知名度は上げています。学校行事など案内をいただいたものは全部参加し、ご挨拶させていただいて、長い名前も全部言わせてもらっています。そこでお母様たちと面識ができ、道で会うとご挨拶するし、どんなボランティアがあるのか聞かれることもあるので、広報の配布など若い方にもしてもらっています。うまく横のつながりをお願いできればあれがベストかと思います。

事務局 裏を返せばそれも一つの地域福祉の団体なのかなという気もします。さわコミといいながらも、地域コミュニティの一部という気もしますし、あえて別の組織を作る必要があるかといえば同じものでいいのではないかと考えられます。地域によって様々な形があると思います。先程言われたように、まずは民生委員さんと支部社協の方でベースを作ってやるのがいいのではないかとこの地域もあると思うし、現在さわコミが醸成していて、それを活用することも方法としてあると思います。その地区によって条件や構成員が違いますので、やり方はいろいろあると思います。さわコミと円卓会議は別と考えなくても、さわコミの中で地域福祉を議論してもいいのではないかなという感じも受けますし、あえて形にとらわれることもないのかなという気もします。ただ、地域により条件が違いますので、一概には言えませんが、次の計画の中でどういう風にしていくか、その中で、先程の拠点のことなども含めて考えていかなければならないと考えます。

委員 この前のさわコミの時に議題になったのですが、市の方と警察関係の方にもこれから参加してもらえるように要請しましょうかという話になりました。ですからそちらの方たちも入ってくるのですが、まだ決定ではないです。

委 員 さわコミと社会福祉協議会は、役所の教育委員会と社会福祉課が話し合わないためです。支部みんながそれを活用しましょうとなったら、それは市の方でやらないと、なかなか方向がつけられない。

委 員 わかっています。一応言っておきます。

委 員 是非必要なことだと思います。教育委員会の壁というものがあるんです。学校という聖域です。その辺はご意見が出ているので、本当に市の方でご検討お願いしたいと思います。

事務局 これまでいただいたご意見については、29年度から32年度までの第3次計画を策定する中に入れていきたいと思います。

議 長 ありがとうございます。時間の関係上次の議題に移らせていただきます。次に（2）第2次地域福祉計画の進捗状況について、事務局から説明をお願いします。
【事務局説明】

議 長 ありがとうございます。それでは委員の皆様、ご意見、質問等ございましたらお願いします。

委 員 この評価をみるとほとんどが「できている」「ほとんどできている」に入るのですが、本当ですか。

事務局 これはあくまで実施評価ということで、やりましたということの評価しているのが多いです。本来なら評価というのは実施したことによってどんな効果があったか、こういったことが期待されるというのが本来の評価だと思っています。今回につきましては実施評価にとどまっていることがありますので、やったということで評価させてもらっているところが多いと思います。

委 員 本当に全部できているのならば、計画を作る必要がない感じがします。社協の厳しい評価もまた、何年も経つのにできていませんねという話にもなるし、私としては難しいところです。

委 員 できてませんとなった時、それから先どうしたらいいかというのも一緒に考えてもらいたいと思います。できてないで終わったらそれだけで終わりです。その先が問題であってどうしてもできないのならそれはやらないで、他のことに力を入れた方がいいのではないかと素人の私は思います。

委 員 課題のところは、特になしのところではできているから特になしなのかわからないですが、これは無理やりにでも探して書いた方がいいと思います。そうしないと進んでいけないし、この先計画を立てる上で、この課題が大事だと思います。

議 長 事務局から回答をお願いします。

事務局 評価の方法は「できている」「ほとんどできている」「あまりできていない」「できていない」の4段階で行っております。自己評価では少し甘くなったと思います。できていない項目の課題の解決については、評価方法等の様式を変更してみたいと思います。

委 員 社協の評価は厳しくなっています。支部社協の方々等、やってくれてるのは十分に分かっていますが、社協の使命として十分に市民に理解されているかという視点になると、そうではないだろうということで厳しくつけています。課題については抽出が不足です。これから課題を表に出して、ひとつひとつ取り組んでいくこと、また、社協関係者に説明していくことであります。社協の評価がCとなっている意図は市が指導していないということではなく、本来の使命としてはどうかという、事務局レベルで厳しくして鞭を打つ意味での評価ですので、ご理解いただければと思います。

委 員 この会議は公開となっておりますが、資料も公開されるのですか。

事務局 はい、公開となっております。

委 員 評価の基準が、市と社協では違うので、一緒に並べるのはおかしいのではないかと。社協は自虐的です。市の方はほとんどがBかAで、もうやることないのではないかと。思うくらい立派です。

事務局 先ほども言いましたように、実施評価ということで、本来は反省点があって改善していくのが評価だとは思いますが。確かに社協との評価の基準の考え方が違うところがあるかもしれません。

委 員 そうすると公開しない方がいいのではないかと。社協の方はやっけていてもできていないと評価しているが、市はやったからできているとしていて、基準が違いすぎるので、公にするものは基準をすり合わせて評価していただかないと、基準がなく勝手に評価したものを公開するというのは納得ができません。

委 員 自己評価ですよね。これは客観性を持たせるのがP D C Aの原則です。庁内で客観性を求めるのはすごく難しいとは思いますが、作業部会の中で見る等、工夫して評価した方がいいと思います。

事務局 自己評価だけではなく、第3者的評価もあればということでしょうか。

委 員 そうですね。

事務局 おっしゃる通りだと思います。

議 長 他にご意見等ございますでしょうか。

事務局 資料の公開についてですが、この評価は自己評価であり、評価の指標が違うものを同じ土俵の中で表現するのはおかしいとの指摘でございますので、評価の部分については外して公開の方がよろしいでしょうか。

委 員 検討してほしいです。これだけをみると、社協は何もやっていないと思われてしまう。

事務局 わかりました。

議 長 どうもありがとうございました。
次に（３）その他について委員の皆様、何かございましたらお願いいたします。
※特に意見等なし
特にないようですので議事は終了いたします。進行を事務局にお返しします。
委員の皆さま、ご協力いただきましてありがとうございました。